

# フォレストニュース

植林が地球を救う

令和5年(2023)11月10日

No. 190

発行 高津啓洋

## パンタナールの地に潜在自然植生を植える

潜在自然植生という植生概念をご存知でしょうか？本来、その土地の自然環境の総和が支え得る、理論的に考え得る植生のことで、「その土地本来の森」とも言えます。その森を復活させるために①マウントをつくり②土地本来の樹木を混植、密植で植える。そうすることで20～40年で森が蘇ります。本物の森は、火事に強い、台風にも強い、防災林として最適です。

環境破壊が進むパンタナールの

地で「本物の森」を創り、地球規模の環境保全のロールモデルを作ることが、緑の会の中心的目的です。これを現実にするために、日本の各支部ににおいて「本物の森」づくりの取り組み、体験、勉強会を行ってきました。

そして2024年はいよいよパンタナールに「本物の森」を創る段階を迎えました。パンタナールの現地で活動する団体と連携しながら只今、植樹する苗を育成中です。

パンタナールは火事が多く、10

年に一度は洪水が起こり、台風並みの暴風雨が頻繁に起こる災害地でもあります。環境保護とともにチャコ地方の地域発展にも貢献していけることを確信しています。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます

### 西国分寺市西恋ヶ窪緑地と福生文化の森を見学

武蔵野支部では11月4日(土)雑木林の自然や管理を学ぶために西国分寺市西恋ヶ窪緑地と福生文化の森を見学しました。参加者11名でした。

雑木林の見学は2019.11.6(土)に東村山市の八国山緑地、通称トトロの森以来の見学でした。武蔵野の雑木林は、江戸時代に農業を

営むため、主にコナラ、クヌギを中心として作られています。その土地本来の樹種の遺伝子を守り、萌芽更新とドングリの苗木を植樹し、実生を育成することにより、新しい雑木林を作る様を継続的に見学し、その変化を観ることができました。

萌芽率や伐採により、林床では光が入って、眠っていた草木が芽を出し、大幅に種類が増えたこと、又、蝶々や様々な昆虫など生物多様性の保全にも効果があると説明を受けました。現地観察を通して又、樹木の伐採により、萌芽更新、実生の育成、補植により若い木を育てる過程をみることで多くの恵みを得た一日でした。



ケブラッチョ



ラパーチャ

